

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492400153	事業の開始年月日	平成23年4月1日	
		指定年月日	平成23年4月1日	
法人名	株式会社 リフシア			
事業所名	らいふ香川			
所在地	(〒253-0082)			
	神奈川県茅ヶ崎市香川3-29-7			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		工外数	2工外	
自己評価作成日	平成26年2月26日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月24日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「心を添えて共に生きる」の理念に基づき、お客様個人に沿った支援を心がけています。毎日を生き生きと笑顔で過ごして頂けるように、役割のある生活作りをしています。住み慣れた地域での暮らしを継続できるように、地域行事への参加や近隣のスーパーへの買い物等を行っています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年3月18日	評価機関 評価決定日	平成26年4月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の特徴】
当事業所は、JR茅ヶ崎駅から相模線に乗って2駅目の香川駅から徒歩1分のところにある。隣と向かいにタクシー会社の大きな駐車場があり、広々としている。当法人は茅ヶ崎市市内に7か所の事業所を持っている。親会社は建設、観光、園芸と多角的に事業を行っているが、高齢者の介護事業を通じて地域社会に貢献している。

【地域とのつながり】
法人の目指す地域貢献として、法人内のネットワークで茅ヶ崎市全土の福祉をカバーできるような事業を展開している。今までの生活を継続できていることを知らせるためにも、地元の行事に積極的に参加している。そのことで地域の方にも認知症になっても安心して暮らせることをアピールしている。職員も主に地元の方を採用しており、地域の行事等に詳しい。運営推進会議や行事を通じて地元と協力し、認知症に対する知識の普及や対応はもとより、地域の拠点となれるよう努力している。

【利用者寄り添うケア】
「心を添えて共に生きる」の理念通り、職員は心を一つにして利用者のケアにあたっている。利用者が考えていることを実現できるよう、利用者の望みを丁寧に聞いている。外出したい利用者には職員が同行して外出し、本人が納得するまで寄り添っている。利用者が食べたいと言えば、できる限り希望に添えるよう考え、時にはおやつにおそばを出すような工夫もしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	らいふ香川
ユニット名	だいち

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝朝礼時、理念の唱和を行い実践に努めている。 ・理念に沿った目標を、職員各自が年間目標として設定し目標達成に向け努力している。 	入職時研修に理念を学習する。法人の理念である「心を添えて共に生きる」を毎朝申し送り時に唱和している。理念は事業所内に掲示し、申し送りのバインダーにも添付している。職員全員は理念を書いた携帯用カードを持っており、職員も自己管理目標を定め、理念に沿ったケアを行っている。理念を基に毎年、年度始めに事業所目標を作っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に加入し、自治会や公民館のイベントに参加したり、地域の子供達がボランティアとして事業所を訪れお客様と交流したりしている。 	今年度の目標を「地域」と定め地域との交流を大切にしている。地域の祭りの際は御輿が来てくれる。公民館でのバザーに参加、利用者の作品を出品している。福祉関係の学校から実習生を受け入れている。ボランティアに尺八や大正琴のグループが来所している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所のイベントの案内を近隣住民や自治会にだし周知を図っている。 ・お客様と一緒に、近隣のスーパーや商店に買い物に行き、日常的に交流を図っている。 		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月に1回開催し、サービスの内容やイベント、お客様の状態の報告を行っている。 ・事業所のイベント、地域への発信方法等、参加者からアドバイスを頂き実践に活かしている。 	隔月に小規模多機能型居宅介護事業所と合同で運営推進会議を開催している。茅ヶ崎市職員や自治会長、民生委員、相談員、利用者家族などが出席し、地域の情報や防災についての意見交換をしている。職員が学習してきた地方の情報なども、勉強会として報告するなど、地域づくりに提案等も行っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に毎回参加をお願いしている。 ・市の相談員の訪問 ・随時、電話やメールでの報告・相談を行っている。 	運営推進会議に茅ヶ崎市の職員が必ず参加し、意見交換を行っている。地域包括支援センターが並びにあるので、相談に赴いたり行き来を頻繁に行っている。地域密着型事業所連絡会の役員を引き受け、行政とも協力関係を作っている。市の相談員2名が来所する。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・日中はユニットの出入り口は解放され、他のユニットにも自由に行き来できる。 ・センサーマット等を活用することで、安全に行動して頂けるようにしている。 	身体拘束禁止、虐待防止、事故防止の各委員会を作って、事例に基づく勉強をユニットごとに行っている。身体的拘束は無論、言葉による拘束についても常に注意し、その場その時に注意できるよう指導している。日中は施錠していない。本人の行動を予測しながら職員が寄り添う支援を行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・傷やアザ発見時には、ヒヤリハット報告書を提出することにより、虐待の早期発見、防止に努めている。 ・虐待防止委員会を設置し、ユニット会議などでミニ勉強会を開き、職員の意識向上に努めている。 		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修などに参加し学ぶことにより、必要時には活用出来る様に努めている。 		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書の読み合わせを行い、不明な点や疑問に答えている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時やサービス担当者会議で、ご意見やご要望を確認している。ご家族やご本人の意向はユニット会議等で職員に周知している。正面玄関に「ご意見箱」を設置している。	「ご意見箱」を設置している。イベントに家族を招待したり、毎月の近況報告で利用者の様子を報告している。法人でアンケートを行い、サービスについての意見を募った。職員の言葉遣いに個人差があるとの意見を受け接遇の研修を行うなど、改善に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全社員が集まる会議を行い、スタッフの意見を集約し運営に反映させている。個人面談を実施しスタッフの声を直接聞いている。	利用者と同じアンケートを職員にも行い、サービスに対する意識の差を検証した。職員は連絡ノートやリーダーに口頭で意見の具申をしている。毎月のユニット会議で話し合っている。管理者やリーダーは職員が意見を言いやすい環境づくりに努めている。各職員が感染予防、事故防止、広報、勉強会などの委員会に属し、ユニットが連携して意見を出し合っている。職員の提案で食事時間の見直しや、感染症予防グッズの見直しなどを行った。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス、給与規定を公開。個人面談を行いスタッフの希望を考慮し働きやすい職場環境を整えるようにしている。また、個々のスタッフが目標設定し達成できるよう一緒に考察している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修は、主に神奈川県GH連絡会主催の研修に参加。内部研修は、研修委員会主催で勉強会を実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同社の各事業所の委員が定期的に集まり、研修報告や事例検討を行ないサービスの質向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用開始前に面談を行っている。どのような暮らしを望んでいるのかをご本人から聞き取り、ご本人の思いに沿ったケアを心掛けている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用開始前に面談と施設の見学を行っている。入居後もその時々々の不安や疑問に答え、ご家族が安心できるように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談受付時にご本人とご家族の話をよく伺い、ご本人にとって必要と思われるサービスを見極め、GHに限らず、より良い生活環境作りの提案をしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様各々が、出来る範囲で家事を職員と一緒にやっている。 ・ぬか漬けや梅酒など、お客様と相談しながら作っている。 		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族が来訪された際に、お客様の日常の様子などの報告を行うとともに、より良い支援のための意見や提案を積極的に伺っている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・お客様各々の趣味や嗜好、馴染みの人や場所などを把握し、出来る限り関係が継続する様に努めている。	近隣のスーパーマーケットや商店に買い物に行ったり、近隣に花見に行ったりしている。かかりつけの医師との関係継続に努めている。茅ヶ崎市の祭りや地引網、餅つきなどの行事への参加を通じ、地域の方との交流を大切にすることで、知り合いなどの出会いの場となっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・デイルームはいつでも好きな時に自由にお客様同士が交流を持てるように解放されている。 ・孤立しがちなお客様や、お客様同士が対立しそうになった時には、職員が声掛けを行ったり間に入ることで、お客様同士の関係が円滑に行われるように配慮している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会議への出席を依頼してご意見を頂く等、いつでもご相談を受けられるように関係を継続している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様とコミュニケーションを取るなかで、お客様への理解を深める様に努めている。 ・コミュニケーションが困難な場合には、ご家族の意見を伺ったり、カンファレンスにより本人本位に検討している。 	入居時は家族からの聞き取りで生活歴を把握している。普段から話しやすい雰囲気を作っている。買い物や散歩などの折に思いを聞くことが多い。入浴時などの一人になる時間も思いを聞くために大切にしている。表現の難しい方は表情などでくみ取るようにしている。調査当日も利用者の「おそばを食べたい」との会話から、おやつに暖かいおそばを作った。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・センター方式の帳票を利用することにより、入居時に職員が把握できるようにしている。 ・お客様との日常的な会話の中から、お客様各々の生活歴や馴染みの暮らし方等、情報を収集し職員間で情報の共有が出来る様に努めている。 		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の申し送りやカンファレンス、ユニット会議などでお客様の現状の把握と情報の共有に努めている。 		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にサービス担当者会議を開催している。 ・お客様の状況に変化があった時や、新たな課題が生じた時はすぐにカンファレンスを行い、現状に則した介護計画を作成している。 	年に1度利用者家族の来所持に合わせ、サービス担当者会議を行っている。毎日の支援をタブレットPCに入力、各職員がモニタリングを毎日行っている。月ごとに計画作成担当者が評価をし、6か月ごとに計画書を更新している。医療情報は経過記録に記載している。職員はカンファレンスで情報を共有している。変化のあった時はすぐに対応している。	

27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・お客様各々の介護日報、介護記録等に記入、あるいは申し送りを活用し情報を共有することにより、実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>・お客様、あるいはご家族各々の状況や希望に合わせたサービスを提供している。 ・その時々生まれるニーズに対応して、お客様優先の柔軟な支援を行っている。</p>		
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>・町内会や自治会、公民館などと連携を取り行事に参加したり、イベント時に協力を得ている。 ・災害時など地域と協力し共に支え合う関係作りに努めている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・お客様、あるいはご家族の意向を受け、かかりつけ医を継続できるように支援している。 ・要望があった場合には、連携医療機関による訪問診療の案内を行っている。</p>	<p>半数が入居前からのかかりつけ医師に通っている。往診には家族が同行し、帰宅時に結果を教えてもらっている。緊急時対応や重度化対応をしてくれる医師もいる。残りの半数は当事業所の協力医をかかりつけ医としている。週に1度の訪問看護を使う方もいる。副所長が看護師のため緊急の場合でも対応がスムーズである。</p>	
31		<p>看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>・日常的に看護と連携を取り、報告・連絡・相談を行っている。 ・お客様の健康状態に変化があった場合には、すぐに適切な対応が出来る様に支援している。</p>		

32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none">・入院時、病院職員と連絡を取り、日常生活等の様子を伝え、円滑な入院生活が送れるように努めている。・本人との面会や医師、看護師等から治療状況を聞くことで退院後の対応が円滑に出来る様に努めている。		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・看取り指針に基づき、ご本人の意思を尊重しつつ、ご家族、かかりつけ医、看護などと連携を取りながら、チームとして支援に取り組んでいる。	「看取り介護指針」を作成し、入居時に説明し同意書を取り交わしている。看取りを行うときはかかりつけ医から家族に話をしてもらい、かかりつけ医、家族、事業所の3者で十分に話し合い、合意の上看取りを行っている。看取りは2例あり、最後まで入浴も支援したいと、シャワートロリーを使い自室での入浴を支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急事態に対応する為の連絡カードを個々に作成、緊急時には直ぐに対応できる体制を作っている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的にお客様を交えた非難訓練や災害時の緊急対応などの訓練、消火体験などを行っている。 ・年1回、BCP訓練を実施している。	年に2回避難訓練を行っている。10月は利用者と共に向かいのタクシー駐車場に避難誘導を行った。3月末に夜間想定訓練を行う。法人では、災害時も事業を続けられるよう事業所間相互支援計画を持っており、今年は災害時の連絡方法としての連絡体制の訓練を実施した。備蓄として3日分の食料と飲料水の他、受水槽、自家発電装置などそろえている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・「人間性尊重」の理念に基づき、常にお客様の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	アセスメントから生活歴などを参考にセンター方式に記入し情報を共有している。接遇の研修を折に触れて行い、先輩に対しての礼節を欠くような言動を注意している。名前には必ず「さん」をつける、入室の際やケアをする場合は声をかけるなど徹底している。契約書などの書類は鍵のかかる書庫に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・業務優先で物事を決定せず、お客様の思いや希望を優先して、お客様が自己決定できる働きかけを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・業務よりお客様の意向を優先して支援を行っている。 ・起床時間、就寝時間、午睡等お客様各々のペースを大切にし、希望に沿った支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・お客様の好みや季節に合った衣類を一緒に選んだり、買い物支援を行っている。 ・希望により、訪問理美容の支援を行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の盛り付けやテーブル拭き、食器洗いなど職員と一緒にやっている。 ・漬物を一緒に作ったり、おやつを手作りにしたり工夫している。	事業所内の厨房で専任の職員が調理を行い、保温カートに入れて運んでくる。ユニット内では味噌汁や漬物を利用者と共に作っている。毎月行われる「厨房会議」でイベント食やお楽しみメニューなど、利用者の希望を基に話し合っている。利用者が落ち着いて食べられるようテーブルの形を工夫したり、職員も同じものを食べて会話が弾むよう心掛けている。花見に弁当を持参したり、イベントで外食も行う。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事量、水分摂取量はその都度記録に残し、不足している場合は、お客様の状態や好みを考慮して工夫して提供している。 ・お客様の嚥下能力に応じた食事形態で提供している。 		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。 ・お客様各々の口腔状態や出来る事に応じた口腔ケアを支援している。 		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄記録により、お客様各々の排泄リズムを把握し、プライドに配慮しながらトイレの声掛けや誘導を行っている。 	各フロアに4つのトイレがあり、車いす用2つ、自立用1つ、浴室に隣接して1つある。手すりの他、背もたれや可動式の肘かけなど工夫されている。排泄チェック表に基づき、自発的にトイレに行けるよう声掛け誘導等を行っている。日中は極力トイレを使用し、排泄の自立の支援に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日ヨーグルトを提供、オリゴ糖やバナナなども取り入れ便秘の予防に取り組んでいる。 ・午前中、毎日体操、下肢の運動などを行っている。 		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回程度を目安に、お客様の希望や外出などの予定を考慮しながら支援している。 ・菖蒲湯やゆず湯など、季節に合った入浴支援を行っている。 	浴室は窓があり明るい。脱衣所に隣接しトイレがついており、排泄に失敗してもすぐに洗浄や入浴ができる。浴槽が可動式で、左右どちらからでも介助ができる。順番や湯温など、利用者の希望に沿うよう努めている。入浴を断られても「ひげを剃りに行きましょう」「手伝って」「洋服を着替えましょう」などと言って浴室に誘導している。重度化した場合は、隣接事業所のリフト浴やシャワートロリーを使用し対応している。ゆず湯などの行事湯や温泉入浴剤など利用者は楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様各々の体調や状況に応じて、日中フロアのソファや居室のベッドで休息をとっている。 ・夜間、居室の室温や照明などをチェックし、安眠できる環境作りに努めている。 		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様各々が服用している薬の種類と用量、服用時間の一覧表が薬ケースに貼ってあり、いつでも確認出来る様になっている。 		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様各々の出来る範囲で家事などの役割を持っている。 ・毎日のレクリエーションや行事などに参加し楽しみを持って生活できるように支援を行っている。 		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩や外気浴等、戸外で過ごす機会を作っている。 ・花見や外食などのイベントを提供している。 	駅前のスーパーマーケットや近隣の神社などに散歩に行っている。中庭にも椅子やテーブルがあり、日向ぼっこができる。季節ごとに牧場や公園に出かける企画をしている。毎年町内のお祭りや公民館祭り、バザーや地引網などの他地区の行事にも参加し、出かける機会を作っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様のご希望により、一緒に買い物に行き、好みの物を自身で購入できるように支援を行っている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット内のスタッフコーナーから、いつでも電話することができる。 ・周辺にポストがあり、年賀状やハガキの投函を支援している。 		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・共有の空間は、安全に寛いで生活出来る様に、温度、湿度等、職員が確認を行っている。 ・季節感の感じられる飾り付けを工夫している。 	中庭をはさみ小規模多機能型住宅とつながっている。長い廊下は平行棒が置かれ、格好の歩行訓練の場となっている。居間は台形の特注のテーブルが置かれ、利用者の状況で自在に変形できる。ウッドデッキには金魚やメダカの瓶が置かれ、犬や猫が時々来客する。庭の手入れや整備は専門業者に、室内の清掃はシルバー人材センターに依頼している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・テーブル席やソファなど、時に応じて独りで、あるいはお客様同士で自由に使用出来る場所になっている。 ・他のユニットへの行き来は制限なく自由で、レクリエーションに参加したりお茶を楽しんでいる。 		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族と相談しながら、馴染みの家具やご家族の写真、手作り品、使い慣れた食器などを用意して頂いている。 	各居室には窓があり、室内は明るい。入居前の自宅のレイアウトを参考に、馴染みやすい家具の配置等を配慮するようにしている。できる方は一緒に片付けたり、掃除を行っている。テレビ、箆笥、机、いす、ソファなどは思い思いの物を持ち込んでいる。鏡台や化粧品など、好みの品を置いている。	

55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none">・フロア内はすべてバリアフリーで、居室、トイレなどのドアはスライド式となっている。・廊下やトイレ、浴室などには手すりがあり安全に移動できる・車椅子のお客様が、自身で自由に動く事が出来るように、十分なスペースを確保している。		
----	--	--	---	--	--

事業所名	らいふ香川
ユニット名	たいよう

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所は「心を添えて共に生きる」という理念を掲げており、毎朝唱和を行っている。理念を元に事業所、個人の目標を立てて取り組んでいる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、行事や祭りに参加したり、施設の行事にお招きもしている。散歩や買い物を通じて、地域の方との交流に努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの催しで、GHの説明や事業所の取り組み等を、地域の参加者の方たちに発信している。電話や来所されての相談には随時対応している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。サービスの内容やイベントの報告、お客様の状態等の報告を行っている。災害時の相談等も行い、意見を頂いている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席をして頂いている。市の介護相談員の受け入れも行き、アドバイスを頂いている。日頃は電話やメールを使い報告・相談を行っており、協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	お客様の状況に合わせた見守りの実施と、センサーマット等を活用することで安全に行動して頂ける環境作りをしている。ユニットのドアは施錠せず、自由に行き来ができる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されないよう注意を払い、防止に努めている	委員会で虐待防止について勉強し、ユニット会議で報告を行い意識付けをしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などに参加し学ぶことにより、必要時には活用出来る様に努めている。今後は施設内研修も行っていく予定。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書の読み合わせを行い、不明な点や疑問に答えている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時やサービス担当者会議で、ご意見やご要望を確認している。ご家族やご本人の意向はユニット会議等で職員に周知している。正面玄関に「ご意見箱」を設置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全社員が集まる会議を行い、スタッフの意見を集約し運営に反映させている。個人面談を実施しスタッフの声を直接聞いている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス、給与規定を公開。個人面談を行いスタッフの希望を考慮し働きやすい職場環境を整えるようにしている。また、個々のスタッフが目標設定し達成できるよう一緒に考察している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修は、主に神奈川県GH連絡会主催の研修に参加。内部研修は、研修委員会主催で勉強会を実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同社の各事業所の委員が定期的に集まり、研修報告や事例検討を行ないサービスの質向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用開始前に面談を行っている。どのような暮らしを望んでいるのかをご本人から聞き取り、ご本人の思いに沿ったケアを心掛けている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用開始前に面談と施設の見学を行っている。入居後もその時々々の不安や疑問に答え、ご家族が安心できるように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談受付時にご本人とご家族の話をよく伺い、ご本人にとって必要と思われるサービスを見極め、GHに限らず、より良い生活環境作りの提案をしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>お客様個別に食事の盛り付けや配膳、掃除等の出来る事を一緒に行っている。職員が球根の植え方を教えて頂く等の場面もある。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時にご様子を伝えると共にご家族からもお話を伺っている。毎月近況を手紙と写真で報告し、ご家族が状況を把握しやすいように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の方の訪問時は、居室にて過ごして頂いている。馴染みの場所や人等の話に耳を傾け、関係の継続に努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同でカレンダー作りをしたり、手作業を一緒に行っている。職員が間に入り会話のきっかけを作る等、良好な関係作りができるように努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的な働きかけはしていないが、相談等があった時の為に情報収集をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の関わりの中でご本人の思いを伺い、知る事で、希望に寄り添うケアに努めている。連絡ノートを活用し、スタッフ間で共有に取り組んでいる。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にこれまでの経過を伺うと共に、センター方式を一部活用することで、職員が把握できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様の心身の変化等について会議等で話し合い、スタッフ間で共有し、個別ケア等を行いながら有する力の現状把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やフロア会議等で話し合い、普段のご本人の様子を把握して介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送り等で情報を共有し、変化に応じてカンファレンスを行っている。また、変わった事などがあった場合、連絡ノートに記入し、統一したケアができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様の受診やご家族様との外出等の要望には、その都度対応している。その時々個々のニーズに合わせた支援は、相談・検討を行い取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の暮らしが楽しみになるような散歩や買い物等の支援に努めている。地域の行事に参加したり、地域の尺八ボランティアの演奏会や小学生チーム等の受け入れを行っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご本人の意向を受け、かかりつけ医を出来る限り継続している。相談を受けた際には、提携医療機関を紹介している。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りにて看護師に意見を聞き、常に報告・相談ができるようにしている。夜間帯はオンコール体制を取っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者と連携し、普段の様子を伝えたり、経過を聞きスタッフに伝えている。退院時は看護師等に支援内容の確認を行い、スムーズに帰所出来るように退院に向けた情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に施設としての看取りの考え方を説明している。ご本人やご家族の意向を尊重し、ご希望に沿ったケアができるように医師や看護師と話し合い、支援に取り組んでいる。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時に対応するための連絡票を個々に作成し、応急手当等の勉強会を行っている。</p> <p>夜間はユニット毎に携帯電話を持ち、他ユニットの緊急時にはすぐに応援に行ける体制を取っている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>お客様を交えた避難訓練を年に2回行っている。防火戸の使用や水消火器を使った消火訓練等を行い、意識を高めている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様には尊敬の気持ちを持って接し、言葉かけや対応時の態度に注意している。接遇の勉強会を行い、職員へ指導している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様が思いを伝えやすい環境を作るため、日頃から傾聴を心掛けている。レクや外出ではお客様の意見を伺い、取り入れている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペースで過ごせるよう、午睡時間や食事時間を個人に合わせている。ご希望や体調等に合わせ、臨機応変に対応をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望により訪問理美容を利用できる。入浴時や外出時は一緒に服を選び、おしゃれを楽しめる環境づくりに努めている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と一緒に盛り付けやテーブル拭き等の食事準備を行っている。食器洗いや食器拭きも、会話を楽しみながら一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分は個々に合わせた形態で提供し、必要量が確保できるように支援している。摂取量は毎回記録し、職員全員が共有している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行っている。訪問歯科と連携し、義歯の不具合等の調整や支援箇所・支援方法を聞いて実践している。口腔ケアの勉強会を行い、必要性を理解している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表で個々の排泄リズムを把握し、必要時に声掛け誘導を行う事で、トイレでの排泄が継続できるように支援を行っている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>1日1000mlを目安に飲水を促している。起床時には冷水、朝食時はヨーグルトとフルーツを提供している。毎日の体操や散歩で体を動かす時間を設けている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週2回は入浴ができるように支援している。ゆず湯等で季節を感じ、楽しめる入浴を支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間や夜間の過ごし方等は、出来る限り希望に沿い支援している。 お客様個々の体調や希望に合わせて午睡や、ソファでの休養等臨機応変に行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師作成の表で服薬情報を共有している。変更の際には申し送りや連絡ノートにて情報共有し、症状変化があれば随時報告を行っている。与薬は職員2名で名前と日付等の確認をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備等の役割や買い物、散歩等で、毎日の生活に張り合いが持てるように支援している。定期的に季節のイベントを企画運営している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日1回、外気浴ができるように支援している。天気の好い日は近所へ買い物や散歩に出かけたりしている。初詣やお花見等、季節に合わせた外出支援も行っている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時に、お客様がご自分用のお菓子等を選んで購入できるように支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望に応じてユニット内の電話をお貸ししている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では職員が日光や温度、湿度を確認し、その都度対応している。また、ベランダで金魚を飼育したりプランターに花を植えたりする等、家庭に近い環境作りを心掛けている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで寛いだり、TVを見ながら会話を楽しんだりする等、好きな場所で思い思いに過ごせるようになっている。 他ユニットへの行き来も自由にでき、一緒にレクへ参加している時もある。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、使い慣れた家具や寝具、写真等をお持ち頂き、落ち着いて過ごせる空間を作れるように支援している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり、居室やトイレはスライドドアになっている。浴室とトイレには手すりを設置、移動できる浴槽もあり身体機能に合った対応ができる環境になっている。		

目標達成計画

GH

事業所名

(株)リノア さいご香川

作成日

平成26年4月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	・職員を育てる取組 ・研修において、新入 職スタッフの教育研修 の不足、スタッフの 育成。	業務優先に抑えられ ない新入職員の 教育に活用者本 位に指導し、 お客さまの支援をする。	OJTを活用し、教える側と教わる側 双方がケアの本質を 学びあう実践の ケアへつなげる。	6ヶ月
2	35	災害対策において 地域住民の協力を得らな い。	災害時における 地域住民との 相互協力を 持つ。	自治会における 災害時の地域の 支援をお願い する。	6ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。